

礼文島におけるズグロカモメ (*Larus saundersi*) の記録

嶋崎太郎¹⁾・村上賢治²⁾・富川 徹³⁾・小畑淳毅⁴⁾

¹⁾ 〒004-0015 北海道札幌市厚別区下野幌テクノパーク 1-2-14 株式会社エコニクス

²⁾ 〒097-1201 北海道礼文郡礼文町香深村字津軽町

³⁾ 〒001-0017 北海道札幌市北区北 17 条西 4 丁目 1-3 株式会社野生物総合研究所

⁴⁾ 〒057-8558 北海道浦河郡浦河町栄丘東通 56 北海道日高振興局

Record of Saunders's Gull (*Larus saundersi*) from Rebun Island, Northern Hokkaido

Taro SHIMAZAKI¹⁾, Kenji MURAKAMI²⁾, Toru TOMIKAWA³⁾ and Atsuyoshi OBATA⁴⁾

¹⁾Econix co.,ltd., 1-2-14, Technopark, Shimonoporo, Atsubetsu-ku, Sapporo, Hokkaido, 004-0015 Japan

²⁾Tsugaru-machi, Kafuka, Rebun Is., Hokkaido, 097-1201 Japan

³⁾Wildlife Research Institute co.,ltd., 1-3, N17 W4, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 001-0017 Japan

⁴⁾Hokkaido Government Hidaka Subprefectural Bureau, 56, higashi-dori, Sakaeoka, Urakawa, Hokkaido, 057-8558 Japan

Abstract. Saunders's Gull (*Larus saundersi*) was observed at the Funadomari and Lake Kusyu, northern area of Rebun Island, northern Hokkaido, from 25 April to 5 May.

ズグロカモメ (*Larus saundersi*) は関東以西に局所的に渡来する冬鳥で (叶内ほか, 1998), 北海道においては春秋の移動期に渡来する稀な旅鳥とされている (河井ほか, 2003). 北海道における記録としては鶴川河口 1998 年 5 月 (佐藤, 2000), 千歳 2010 年 3 月~4 月 (北海道野鳥愛護会広報部, 2010), 浦幌 2005 年 3 月および 2006 年 5 月 (浦幌野鳥倶楽部, 2009) などがあるが, ほとんどが道央や道東における記録である. 筆者らは 2011 年 4 月下旬から 5 月上旬にかけて, 礼文島において本種を確認したので, ここに報告する.

筆者らによる観察は表 1 のとおりである. 初認は 2011 年 4 月 25 日 10:00 頃で, 船木梓氏が礼文町船泊の船泊小中学校校庭で休息している個体を撮影したものを, 村上が確認し本種と判断した. その後, 4 月 28 日 16:00 頃に船泊小中学校の校庭で確認され, この日以降, 船泊小中学校や久種湖におい

て同一と思われる個体が観察・撮影された. 終認は 2011 年 5 月 5 日 17:30 頃で, 船泊小中学校校庭において休息している個体の確認以降, 確認はなく, 11 日間の滞在記録であった. なお, 本件個体は基本的に単独で行動していたが, 船泊小中学校の校庭ではユリカモメやヒドリガモ, ツグミ等と一緒に観



写真 1. ユリカモメ (右側) よりもやや小さい.



写真2. 雨覆や三列風切に褐色斑があり、初列風切に白斑がみられない。



写真3. 飛翔時。

表1. ズグロカモメの確認状況

年月日	時間	場所	確認状況	確認者
2011年4月25日	10:00頃	船泊小中学校	校庭にて休息中の個体を撮影。初認。	船木
2011年4月28日	15:00頃	船泊小中学校	校庭にて休息中の個体を確認。	村上
2011年5月2日	9:10頃	船泊小中学校	校庭にて休息中の個体を確認。	富川・小畑
	11:40頃	船泊小中学校	校庭にて休息中の個体を確認。ユリカモメ、ヒドリガモ等と一緒に観察される。	富川・小畑
	16:00頃	久種湖	湖上空を飛翔後、湖面に下りて休息する。	嶋崎
2011年5月3日	17:00頃	久種湖	湖上空を飛翔後、湖面に下りて休息する。	嶋崎・富川・小畑
2011年5月4日	7:40頃	船泊小中学校	校庭にて休息中の個体を確認。	富川・小畑
2011年5月5日	14:00頃	船泊小中学校	校庭にて休息中の個体を確認。	嶋崎
	17:00頃	船泊小中学校	校庭にて休息中の個体を確認。夕暮れまで周辺で休息。終認。	村上

察されることがあった。

本種は、ユリカモメと類似しており識別に注意を要するが、(1) ユリカモメよりもやや小さく(写真1)、(2) 嘴は太くて短く、色が黒い(ユリカモメはやや細長く、赤みがかかる)(河井ほか, 2003; 桐原ほか, 2000)といった特徴からズグロカモメと判断した。また、観察された個体は、(1) 初列風切に白斑が見られない、(2) 雨覆や三列風切に褐色斑が見られる、(3) 頭の黒色部の面積が小さい、等の特徴から第1回冬羽と考えられる(写真2, 3)。

最後に、礼文町船泊在住の船木梓氏には初認時の情報をご提供頂いた。また、本稿を投稿するにあたり利尻町立博物館学芸員の佐藤雅彦氏には大変お世話になった。ここに厚くお礼申し上げる。

参考文献

- 北海道野鳥愛護会広報部, 2010. ズグロカモメの記録(千歳市長都沼). 北海道野鳥だより, (160): 10.
- 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. 山と溪谷社. 623pp.
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英, 2003. 北海道野鳥図鑑. 亜璃西社. 399pp.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥550 水辺の鳥. 文一総合出版. 352pp.
- 佐藤ひろみ, 2000. 鶴川河口でズグロカモメを観察. 北海道野鳥だより, (119): 13.
- 浦幌野鳥倶楽部, 2009. 浦幌野鳥類目録第2版. 浦幌野鳥倶楽部. 37pp.